

東海地方から九州地方にかけての太平洋側沿岸の異常潮位について

9 月 22 日頃以降、東海地方から九州地方にかけての太平洋側沿岸（瀬戸内海などを含む）で平常に比べ潮位が高い状態が続いています。今回の潮位の高まりは台風等による高潮や地震による津波等と異なり、いわゆる「異常潮位」と呼ばれる現象です。現在推測される原因として、黒潮が接岸していること、台風第 15 号の影響などが考えられますが、今後さらに調査が必要です。

なお、9 月 22 日 0 時から 26 日 15 時までに各地で観測された潮位偏差（実測潮位と平常潮位の差）の最大値は以下のとおりです。

名古屋 + 31 cm、神戸 + 31 cm、清水（静岡県）+ 30 cm、
広島 + 30 cm、鳥羽（三重県）+ 28 cm、串本（和歌山県）+ 28 cm、
土佐清水（高知県）+ 28 cm、油津（宮崎県）+ 27 cm

今後、しばらく上記の異常潮位が続くものと思われます。

9 月 26 日から 29 日にかけては大潮期（26 日が朔）にあたり、満潮時の平常潮位が一年のうちで最も高くなります。このため、東海地方から九州地方にかけての太平洋側沿岸（瀬戸内海などを含む）では、満潮時刻を中心に海岸や河口付近の低地で浸水のおそれがありますので注意が必要です。

今後、最寄りの気象官署から発表される高潮注意報や情報に十分注意してください。

解説 - 異常潮位 -

1. 用語の解説

異常潮位：台風等による高潮または地震による津波以外の原因で、潮位が平常の値と異なる現象が広範囲にわたり比較的長期間（1週間から3ヶ月）継続する現象。

原因はさまざまな要因が重なり合っていることが多く、直接的原因を特定するのは困難な場合が多い。そのため、現象を予測することも難しい。

潮位偏差：潮位の実測値と平常潮位（天文潮）との差。

大潮期：新月または満月の頃を中心とした、満干潮位差の大きくなる時期。

2. 過去の異常潮位の発生事例

発生月日	継続期間	潮位偏差	発生した範囲	主な被害
1985年11月	約2週間	+20～+45cm	南西諸島を除く全国の沿岸	浸水・荷役障害
1989年7月	約2週間	+30～+40cm	日本海を除く西日本沿岸	浸水
1989年9月	約3週間	+30～+40cm	日本海を除く西日本沿岸	浸水
1999年10月	上旬～11月中旬	+30～+45cm	東海～紀伊半島南岸	床上浸水・冠水
2001年7月	上旬～9月上旬	+10～+30cm	沖縄本島周辺	床下浸水・冠水
2001年9～10月	約1.5ヶ月	+10～+30cm	東海～九州沿岸	床下浸水・冠水

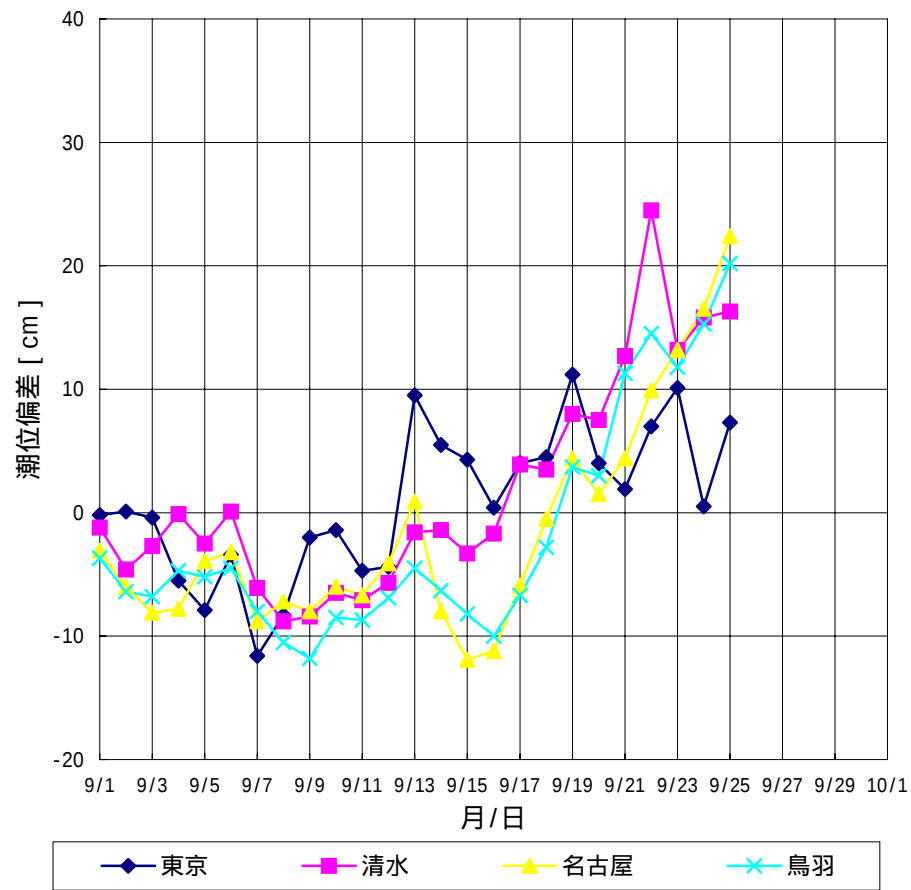


図1 2003年9月東京から鳥羽の潮位偏差 (日平均)

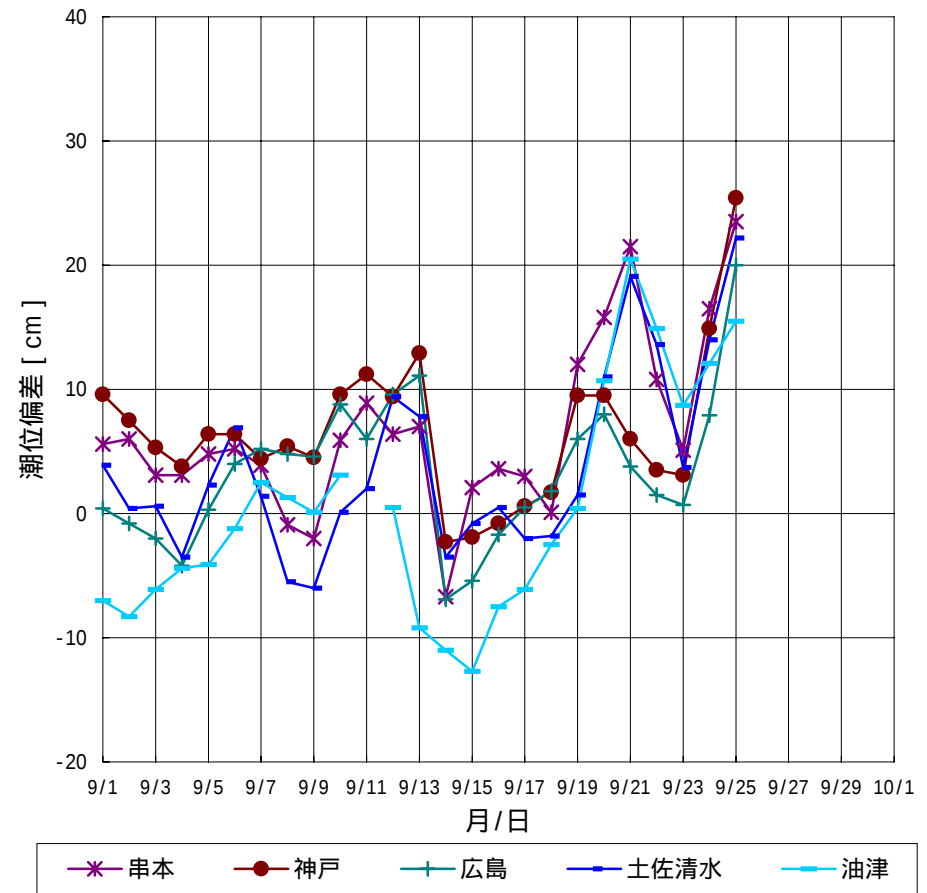


図2 2003年9月串本から油津の潮位偏差 (日平均)